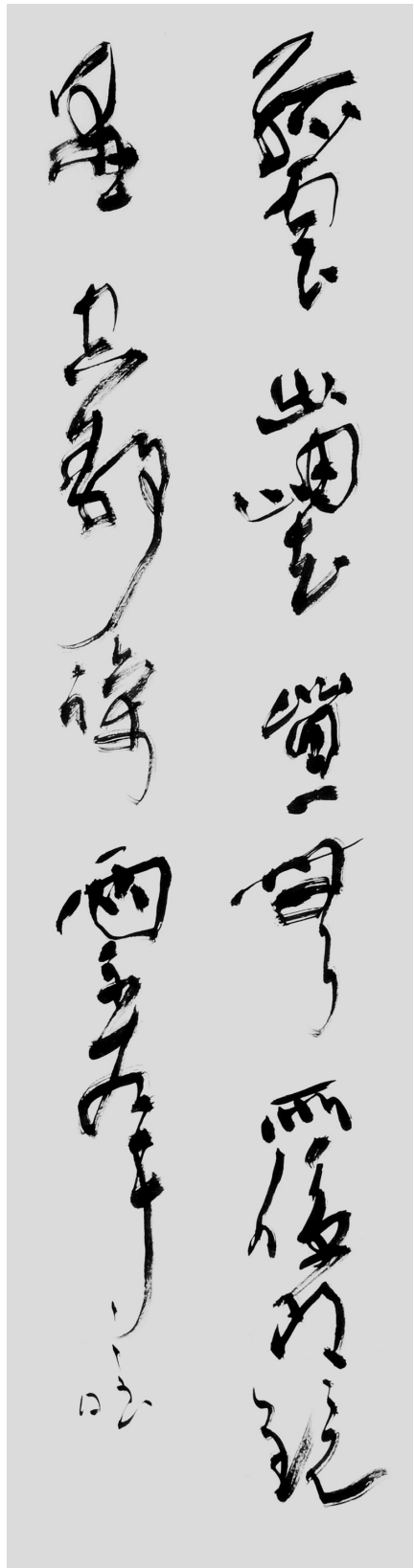


11月25日正午必着

明石春浦先生書



孤雲出岫、去留一無所係。谷から湧き出た白雲は、去るも留まるも思いのまま、何事にもとらわれることがない。
朗鏡懸空、靜躁兩不相干。空にかかった明月は、地上のさわがしさにも静けさにも、わずらわされることはない。

西 墨濤先生書



石牀夢冷和雲臥。茅屋燈殘共月居（黃庚）

石のように堅いねどこに夢もつめたく雲と共に臥し、かやぶきのすまいに燈火つきて月光と共にくらす。山居のわびしさと清らかな光景。

黃庚句
書

風をいたみ 岩うつ波の おのれのみくだけで物を 思ふころかな (源 重之)

あまりにも風が激しいので、岩に打ちあたる波が、自分だけ碎けて、岩のほうはびくともしないので同じように、私の場合も、あの人は冷淡であるこのごろであることよ。(小倉百人一首)



明石幸子書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

丹楓葉落寒 (蕭國寶)

丹楓葉落ちて寒し

紅楓が落葉してさびしくなった。

浩氣還太虚 丹心照千古 (楊繼盛)

浩氣太虚に還り 丹心千古を照らす
平生未報の恩 留まって忠魂と作って補わん

私の浩然の気はいま虚空に帰る。私の赤き心は永く千古にかがやく。報いきれぬ平生の恩、私の魂はこの世にとどまってそれに報いようとするだろう。

寄山中高逸人 (孟貫)

山中の高逸人に寄す 孟貫

煙霞多放曠 吟嘯是尋常
猿共摘山果 僧鄰住石房
躡雲雙屐冷 採藥一身香
我憶相逢夜 松潭月色涼

煙霞 多くは放曠 吟嘯 是れ尋常
猿と共に 山果を摘み 僧と隣りて 石房に住す
雲を躡みて 双屐冷やかに 薬を採って 一身香し
我は憶う 相逢いし夜 松潭 月色涼しかりしことを

人ならば 如何にならまし 夜もすがら 落葉しつとも 靜なる樹よ (茅野 雅子)

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

千 茲
秋 事
巳

※作品には必ず落款を入れてください。

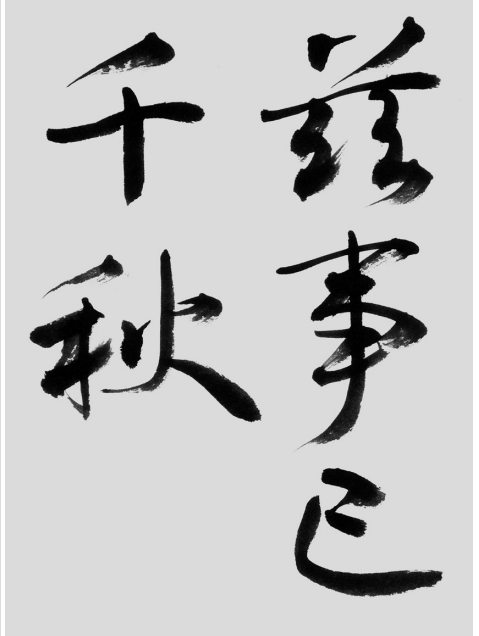
明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



いにしえの偉人が一飯の恩義に感じ入ったという そのことはもはや千年のむかし
 年古りた墓は、樵人たちが知っているだけ かの時のままにここ楚の地の水は流れる
 行きずりの旅人が水際の蘋草を摘んで供え 杜鵑は山中の樹木に悲しく啼く
 春の草は年ごとに緑に茂る かの貴公子がかつて遊んだこの地に

漂母墓

劉長卿

昔賢懷一飯

茲事已千秋

古墓樵人識

前朝楚水流

渚蘋行客薦

山木杜鵑愁

春草年年綠

王孫舊此游

漂母の墓

劉長卿

昔賢一飯を懐う

茲の事 已に千秋

古墓 樵人識り

前朝 楚水流る


渚蘋 行客薦め

山木 杜鵑愁う

春草 年年緑なり

王孫 旧此に遊ぶ

(出典)
 朝日新聞社刊
 「三体詩」下より

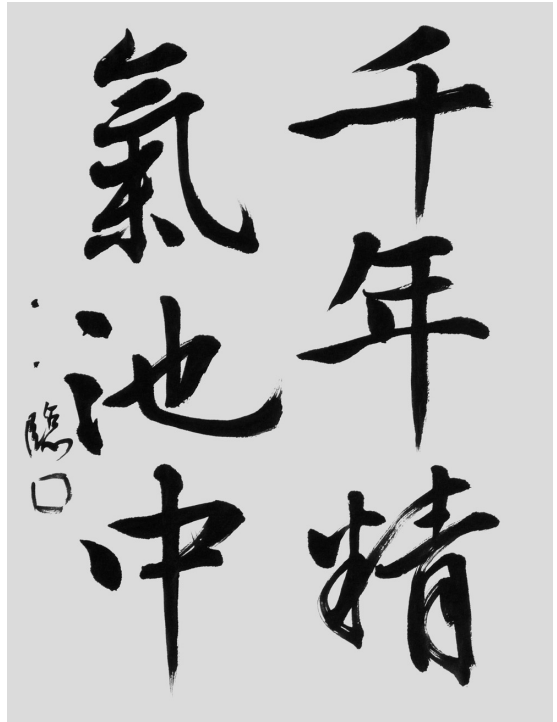


 短簿祠前樹
 鬱燐生公臺
 下石峴顏千
 年精氣池中
 劍一壑風烟
 寺裏山并冽

短簿祠前樹鬱燐。生公臺下石峴顏。千年精氣池中劍。一壑風烟寺裏山。并冽（羽泉茶可試。）
 短簿祠前樹は鬱燐、生公臺下石は峴顏。千年の精氣池の中の劍、一壑の風烟寺裏の山。并冽き（羽泉茶は試む可く）



千年の精気 池中の剣、一壺の風烟 寺裏の山。井冽き（羽泉 茶は試む可く）



千年の精気 池中の（剣）

明文徵明・行書詩卷

文徵明（一四七〇～一五五九）は、揚子江下流域の蘇州の生まれで、明代中期を代表する文人である。宋・元の時代以来、揚子江下流域は主要な米産地で、その中心をなすのが蘇州であり、明代になると絹織物や綿花の産地としても栄え、豊かな経済性に富んだ地域であった。そんな風土の中ではおのずと文化も栄え、すぐれた文人を輩出した。

文徵明の少年時代は特に秀でた子供ではなかったが、父・文林の同僚や友人に当時の第一流の巨匠がおり、彼らに師事して詩や書画を学ぶことができたこと、生来の生真面目な性格と根気強さで、基礎から築きあげていく努力を重ねて、文人としてのめきんでた才能を身につけていったといわれている。

明代の書家達は復古主義を標榜し、元代に一世を風靡した趙孟頫の書を通して王羲之の典型を学ぼうとしたが、文徵明は、さらに直接的に王羲之に肉迫しようとした。また、単に羲之に追隨するだけにとどまらず、他の色々異なった書法を学び、それを消化して自分の書を変化させていった。

彼は天才的能書家ではなく、たゆまぬ習熟と工夫によって大成した。決して独創的で型破りな面白味はないが、一点一画をゆるがせにしない伸びやかで清く澄んだ筆致は、謹厳さとときの細やかさを感じさせる。

文徵明は九十歳という長寿であったが、この行書詩卷は八十八歳の作。内容は虎丘で詠んだ七言律詩旧作四首を書いている。書風は黃庭堅と沈周の間にあって比較的穏やかである。（春濤）



みなじゅうせい
南十字星

中学一年

雨宮春聲先生書



かんえいつうほう
寛永通宝

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



おお かわ
大きな河

小学五年

榎戸春龍先生書



ふ どう こころ
不動の心

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



いしだん

小学三年

藤田幸春先生書



クラス会

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

つ る 小学一年・幼年



森戸春濤書

サ ラ ダ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

て 遠くまでとどく	歌 声は草原をこえ
--------------	--------------

小学五年

び たつ宇宙ロケット	科 学の力で月世界へ飛
---------------	----------------

小学六年

れた 特性をもっている	万 物はみな多少の優
----------------	---------------

中 学

私 方一同元氣でおります	皆 様お変わりございませんか
-----------------	-------------------

一般(級位)

山 川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり(春道列樹)	流 水もあふれぬ紅葉なりけり(春道列樹)
--------------------------------------	-------------------------

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

て	ぶ
	ら
あ	ん
そ	こ
び	に
ま	の
す	つ

幼年

プ	北
ー	か
ふ、	せ
い	が
て	
き	ピ
た	ー

小学一年

村	た
に	い
な	こ
り	の
ひ	音
び	が
く	

小学二年

て	ね
花	ん
び	土
ん	を
を	つ
作	か
る	っ

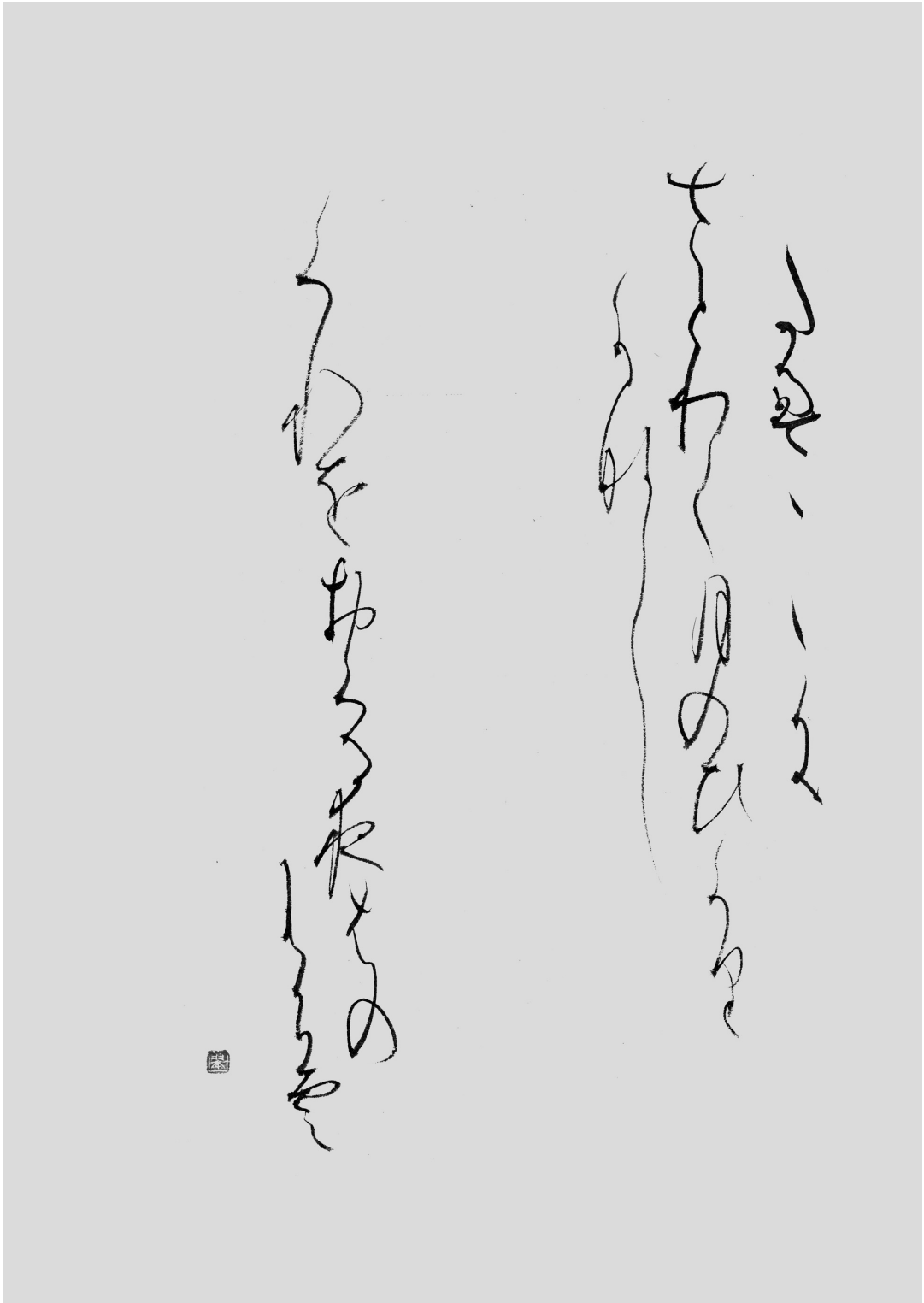
小学三年

大	野
き	原
な	を
川	流
の	れ
ほ	て
と	い
り	る

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書